

対談 「無常識気象インフラへの挑戦と価値創造」



京都造形芸術大学 教授 竹村 真一氏

草開 船乗りの命を守りたい。それが当社の創業の原点です。1970年1月、福島県小名浜を襲った爆弾低気圧により木材船が沈没、乗組員15人が犠牲となりました。当時の気象技術では爆弾低気圧の予測は難しかったうえ、船乗りのための気象情報がなかったことが事故につながりました。「船乗りのための気象情報があれば、事故は防げたのではないかと。そう考えた当社の創業者・石橋博良は、米国に本部を置く海洋気象会社を経てウェザーニューズを設立。各業界が必要とする気象情報サービスの提供を追求してきました。現在では約600人のスタッフが24時間365日体制で気象観測を実施することにも、船舶への最適ルートの提案や航空機の運航支援、暮らしに役立つ気象情報の提供など、世界の約3000社と、約160万人の個人会員に向けて多様なサービスを展開しています。」



ウェザーニューズ 社長 草開 千仁氏

最適解を「無常識」で追求 環境の変動前提に事業設計

[草開氏]

[竹村氏]

天気予報を発信しますが、当社はお客様ごとにカスタマイズした「対応策情報」を提供しています。例えば航空気象分野では、出発地や目的地、飛行ルート、天候を見極め、運航・欠航の判断を支援しています。台風が空港の近くを通る恐れのある場合は、滑走路の向きや機体の性能など周辺情報も加味し、離陸が可能なかを判断する情報を提供。安全で快適かつ経済的な運航をサポートしています。 天気により売れる商品が変化する小売店も支援しています。例えば商品の販売実績と気象データの関連を分析し、約250品目について注目度を毎日提供しています。最適な発注・販売をサポートすることで、廃棄ロスの低減や利益の最大化を実現します。 竹村 個人向けサービスでも、ゲリラ雷雨予報などは画期的です。 草開 利用者参加型の気象コンテンツが特色です。個人会員から寄せられる目視観測や体感などの情報を気象予測に生かしています。例えば台風接近時には、平均で約2万5000件もの情報が寄せられます。当社は一方的に気象情報を発信するのではなく、双方向のコミュニケーション

利用者と共に価値を共創 地球と共生する創造性磨く

[草開氏]

[竹村氏]

で価値を創造していく。あなたの情報発信台であり、70億人の情報発信台を目指しています。

独自の観測インフラ

竹村 タイの洪水や3・11など、世界中で大規模災害が「常態化」しています。気候の極端化もありますが、何より人口爆発や都市集中で、人類社会の側が自然の変動にますます脆弱になりつつある。インフラが整った先進国でもライプラインの意外な高さがある場合は、滑走路の向きや機体の性能など周辺情報も加味し、離陸が可能なかを判断する情報を提供。安全で快適かつ経済的な運航をサポートしています。 天気により売れる商品が変化する小売店も支援しています。例えば商品の販売実績と気象データの関連を分析し、約250品目について注目度を毎日提供しています。最適な発注・販売をサポートすることで、廃棄ロスの低減や利益の最大化を実現します。 竹村 個人向けサービスでも、ゲリラ雷雨予報などは画期的です。 草開 利用者参加型の気象コンテンツが特色です。個人会員から寄せられる目視観測や体感などの情報を気象予測に生かしています。例えば台風接近時には、平均で約2万5000件もの情報が寄せられます。当社は一方的に気象情報を発信するのではなく、双方向のコミュニケーション

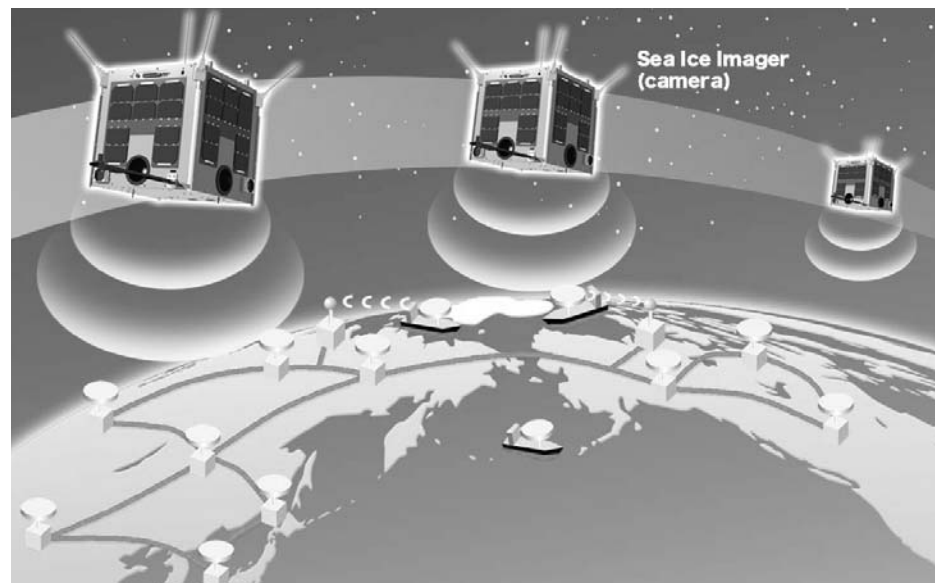
格の高騰も含め、あらゆる変動リスクを前提とした社会とビジネスの再設計が求められています。 草開 気象分野の重要性が増すにつれ、お客様の多様なニーズに対応する情報を提供する際には、気象観測インフラの拡充が不可欠となっています。当社は無常識な手法でそれに取り組んでいます。無常識とは従来の常識にとらわれず、課題解決の最適解を追求することです。 例えは北極海航路を実現するため、今年9月にロシアから衛星を打ち上げる予定です。海水観測や酸化炭素(CO2)濃度の測定などに機能を絞ることで小型・軽量化し、事業化できるコストに抑えました。

北極海航路をより安全に、多くの船会社が利用できるようなすれば、物流コストの削減や期間の短縮、燃料使用量が減ることによる環境負荷の低減なども期待できます。 草開 ゲリラ雷雨対策も無常識インフラを進めています。例えば航空会社からのアイデアで、航空機用のレーダーを気象観測に転用しました。6秒間ごとに捉えたい方向を中心に20度をスキャンできるうえ、価格は従来の気象観測レーダーの約10分の1に抑えられます。現在80基が稼働していますが、よりきめ細かく配備することで、ゲリラ雷雨や突風など局所的に発生する急激な気象の変化を事前に捕捉し、高い精度で注意を喚起できるようにしていきます。 竹村 気象情報の解像度が向上すれば、回避しうるリスクとコストが可視化され、災害が起こってから考える対応療法ではない、より創造的な経営判断ができます。貴社のノウハウや知見を、世界の気象リテラシーを高めることに役立てたいですね。防災・減災の鍵を握るのは何よりも個々の人間力です。 草開 気象リテラシーを高めることは気象情報会社の使命です。取り組みの一環として、ネパールの気象情報革命に挑戦しています。ネパールは国土の半分以上が山岳地帯で、国内の移動は主に航空機です。しかし、気象観測・予報システムは脆弱で、年に数回、悪天候による航空機事故が発生しています。そこで気象情報を利用する航空会社10社が資金と人材を出し合い、必要な設備を当社が提供するところによって同国の気象庁や企業サポーターも巻き込み、最適な気象サービスを共創していく取り組みを始めました。

1匹目のペンギン 竹村 長い目で見れば、火山や洪水が日本の豊かな国土を形成し、台風も海を元気にする。「災い」は「恵み」は本来表裏一体です。変動を前提に地球と共生しうる成熟した文明をデザインすることこそ、これからの企業が取り組むべきテーマです。 草開 東日本大震災は、変動する地球の姿を見せつけました。当社は津波被害の軽減を支援するため、船舶の衝突防止用レーダーを改良した「TSUNAMIレーダー」を開発、青森県から茨城県までの太平洋沿岸9カ所に設置し、観測情報の提供を始めました。津波の動きをリアルタイムに観測でき、沿岸到達の最大15分前に津波を捕捉できると期待しています。レーダーの設置場所を提供していただける企業などを募りながら、全国への展開を急ぎたいと考えています。 竹村 貴社は人工衛星など宇宙まで視野に入れた気象観測を行っていることも、市民から得られる情報を組み合わせて地球の変化を敏感に感じとる新たな社会インフラを構築されています。いわば地球の感覚神経系を整備し、活用する事業モデルですね。 草開 確かに世界中の企業や個人と気象コンテンツを共創していく当社の事業には、オペレーション(機器による観測)とAIオペレーション(eve-observation) 人の体感などを含めた「感測」が欠かせません。ご協力いただいているサポーターへの感謝を忘れることなく、いざというとき役に立てる情報発信台でありたいと願っています。 竹村 地球時代と言いますが、私たちは地球規模のつながりを日々感じています。誰かが生きた地球と日常的に対話できるような情報環境としてリアルタイムの雲の動きや地球温暖化を実感するデジタル地球儀「触れる地球」を私どもが開発してきました。貴社からも数々の貴重なデータを

第2期 価値創造リーダー育成塾 Vol. 4

第2期「価値創造リーダー育成塾」(主催=価値創造フォーラム21、後援=日本経済新聞社)が4月18日、東京・虎ノ門のホテルオークラ東京で開催された。世界最大の気象情報会社として注目を集めるウェザーニューズは、予測不可能といわれていたゲリラ雷雨の予測を、従来の発想にとらわれない「無常識



今年9月に超小型「感測」衛星「WN1衛星(仮称)」を打ち上げ予定。北極海航路を実現するための海水観測などに利用する。

今年9月に超小型「感測」衛星「WN1衛星(仮称)」を打ち上げ予定。北極海航路を実現するための海水観測などに利用する。



価値創造リーダー育成塾 主催 価値創造フォーラム21 後援 日本経済新聞社

価値創造リーダー育成塾 コンソーシアム企業

